

# 身体表現の保育実践に見られる 保育者の育ち

—3年間の園内研修のビデオ分析から—

岡崎女子短期大学 本山 益子  
岡崎女子短期大学付属第一早蕨幼稚園 小原 幹代  
岡崎女子短期大学付属第二早蕨幼稚園 浅井 由美

## 1. はじめに

私たちが身体表現をテーマとする園内研修を実施するようになって3年目になる。日常の保育に身体表現あそびを取り入れることに関しては、関心は持っていたものの、ごく一部の保育者が地道に継続していたに過ぎない状況でのスタートであった。午前中に保育の公開をし、夕方に研究討議をする研修を積み重ね、年度末には幼稚園全体として研修を総括してきた。そして、その園内研修の記録を手がかりにした保育者の気づきや育ちについては、日本保育学会第59・60回大会において発表してきた。しかし、これらの発表は保育者の内省や観察者の実感に基づくものであることは否めない。そこで今回、その保育者の育ちに関する実感をもたらした要因について、客観的に明らかにしたいと考え、ビデオに収録しておいた保育の様子を分析することを試みた。

## 2. 研究目的

身体表現をテーマとする園内研修に見られた保育者の育ちを明らかにするために、本研究においては、対象とした1名の保育者の保育を収録したビデオを分析した。そして、3年間の分析結果の比較を通して、この保育者の保育の変容を明らかにすることを目的とする。

## 3. 研究方法

### ① 研究期間

2005年5月～2007年7月

### ② 研究対象とした保育者

保育暦4年目になるS保育者

### ③ 対象として選んだ理由

3年間を通じて同じ幼稚園に勤務し、今年度の研究保育を1学期に終了していた保育者は3名であった。3年間、同じ学年を担任した保育者は存在しなかった。そこで、今年度主任になった1名は対象からはずし、この園内研修期間における最初の保育を行っていたS保育者を研究の対象とした。

### ④ 対象とした保育

- A) 「伸びたり・縮んだりしてみよう」  
2005年5月実施（年中クラス37名）
- B) 「変身ごっこ」  
2006年11月実施（年少クラス25名）
- C) 「だんごむし」  
2007年7月実施（年少クラス21名）

### ⑤ ビデオの収録

園内研修を記録することを目的として収録し

たため、保育の邪魔にならないようにビデオを部屋の隅に設置し、全体を撮るように配慮した。ビデオを固定することや、ピンマイクをつけることも行っていない。

### ⑥ 保育分析の観点

- A) 保育の展開
- B) 子どもの様子  
不参加の子どもの有無・子どもの動き
- C) 保育者の子どもへの関わり
- D) 保育者の援助  
保育に用いた音の工夫・環境の設定
- E) 保育者の言葉かけ  
「認める言葉」「問いかける言葉」を抽出。  
言葉かけの内容を舞踊の要素（音・動き・イメージ・表現・その他）とその他に分類した。

## 4. 結果と考察

保育者Sは2006年度の総括で「表現が嫌いだった私が、今は子どもと表現あそびをすることが楽しくて、毎日行っている」と発言していることから意識と実践に変容があったことが窺える。そこで、3年間の変容を各観点別に見てみる。

### ① 保育の展開

「保育時間が長くダラダラとした展開」が「同パターンではあるが、みんなが集中して楽しめる展開」になり「集中を維持してひとつのものになることを楽しめる展開」へと変容していった。

### ② 子どもの様子

参加しない子どもに対して「直接的な注意」をしていたのが「イメージの提示による参加の促し」に変わり、2007年度は参加しない子どもはほとんど見られなかった。

### ③ 保育者の子どもへの関わりと音による援助

「一緒に動く⇒風船を膨らます役」という画一的な関わりであり、ピアノによる変身音が一回のみ（2005）。ウッドブロックを魔法の合図として用いる。ピアノやリズム太鼓で表現題材にふさわしい音を出す。リズム太鼓のときのみ一緒に動いていた（2006）。ピアノでカマキリの登場・退場の音を出すと同時に、表現者としていくつかの役になって寄り添う（2007）。

つまり、保育者に表現的な姿が見られ、一緒に楽しむようになったと考える。

### ④ 保育者の言葉

みんな一緒に表現している場面の言葉数は155⇒74⇒159であった。抽出した「認める言葉」の割合は16.1%⇒17.5%⇒34.6%と2007年度に特に増加している。また、「問いかけの言葉」は14.8%⇒23.0%⇒8.2%という結果であった。

言葉かけの内容の分類は、2005年度は「動き（33.5%）」が多く、2006年度は「イメージ」が約半数を占め、2007年度は「イメージ（37.7%）」と「表現（35.2%）」が多かった。これはテーマによる特徴と考えられる。